ServerView Suite

ServerView Installation Manager (SVIM)

補足情報

2015/05
003-014 版

■ はじめに

本書は、ServerView Installation Manager の操作上の補足情報をまとめたものです。本書をお読みになる前に、必ず以下のマニュアルおよび留意事項をご覧ください。

ServerView Installation Manager　取扱い説明書
ServerView Suite DVD のソフトウェア留意事項

本書では以下の略称を使用しています。

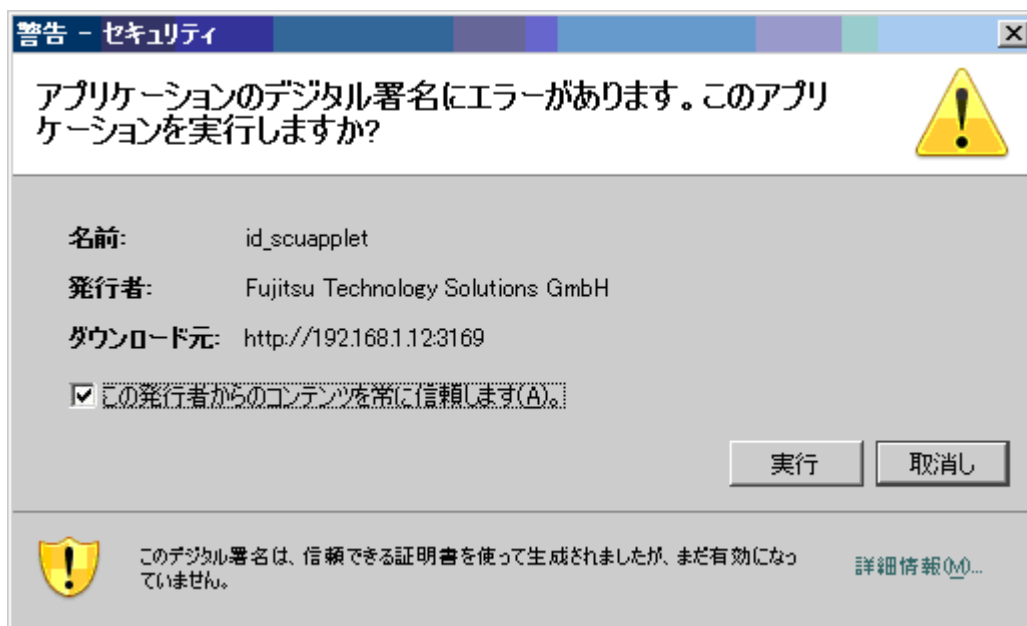
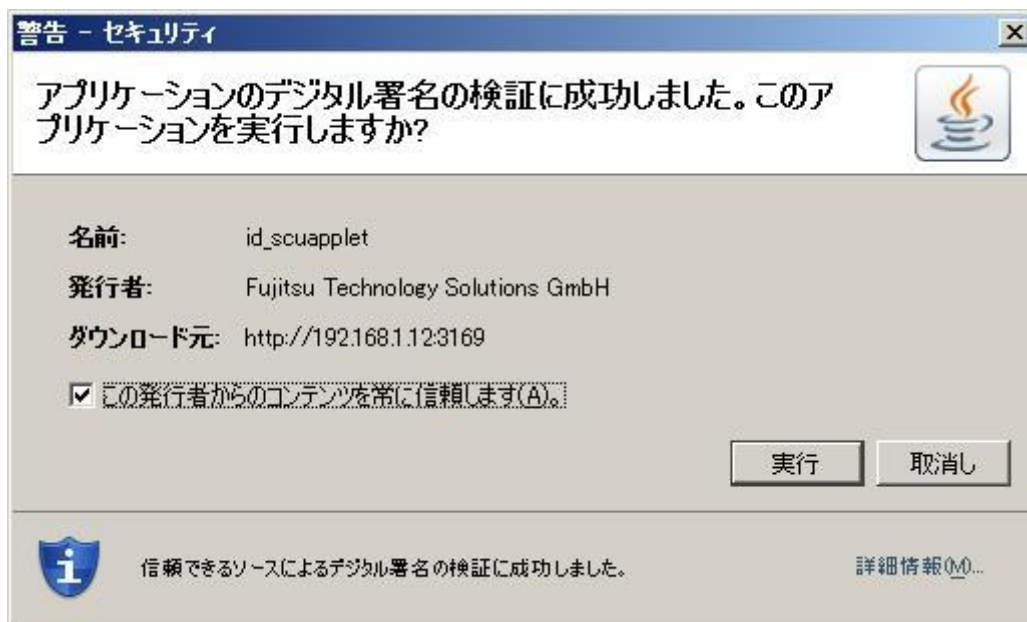
SVIM　：ServerView Installation Manager
SVOM　：ServerView Operations Manager
RHEL　：RedHat Enterprise Linux
SCM　：Server Configuration Manager

■ 目次

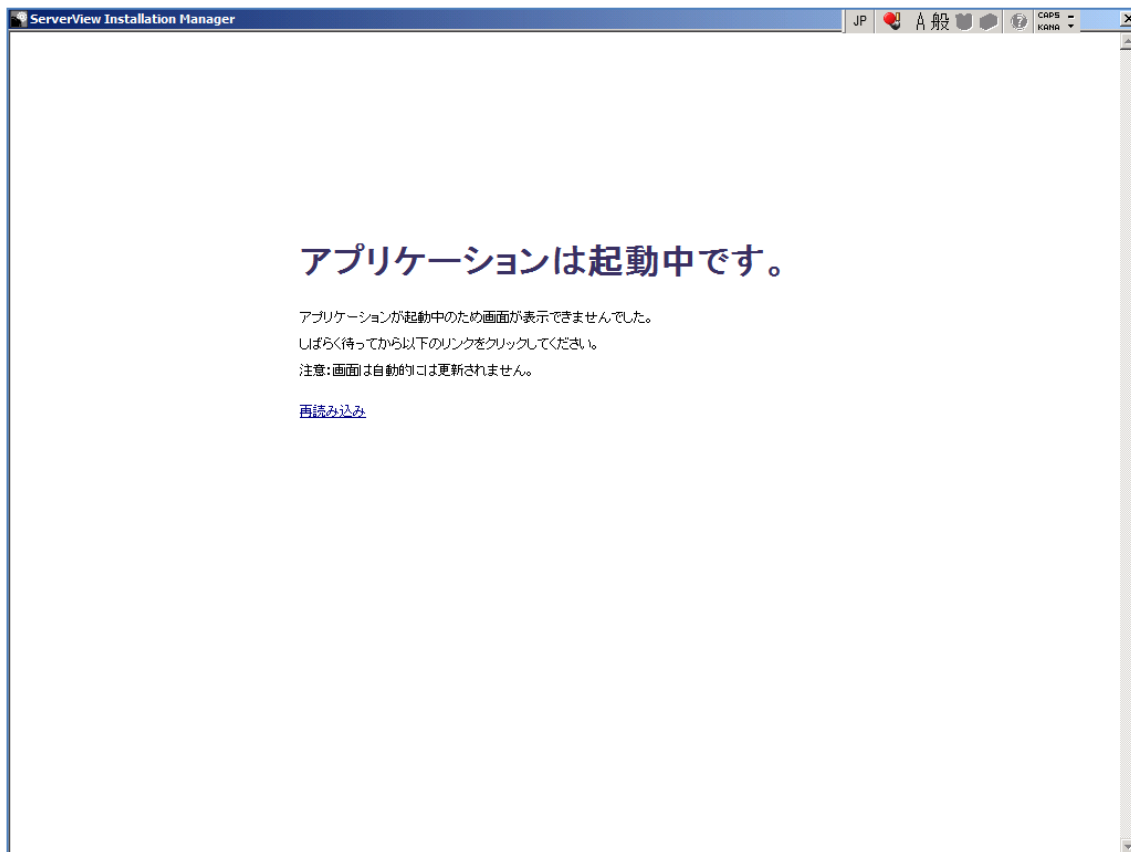
■ 補足情報

1． SVIM の共通的な補足情報

(1) SCM 起動時の警告メッセージについて

リモートインストールにおいて、SCM を起動し設定を行う際に、下記のようなデジタル署名に関する警告メッセージが表示されることがあります。警告メッセージが表示された場合は、「この発行者からのコンテンツを常に信頼します(A)。」にチェックを入れて、「実行」を選択してください。

また、OS 選択画面から SCM を起動するには 2GB 以上のメモリの実装が必要です。

(2) SVIM 起動中に表示されるメッセージについて

SVIM を起動中に下記メッセージが表示される場合があります。
メッセージが表示された場合は「再読み込み」をクリックし処理を続行してください。

(3) RAIDコントローラは1台構成で実行してください。

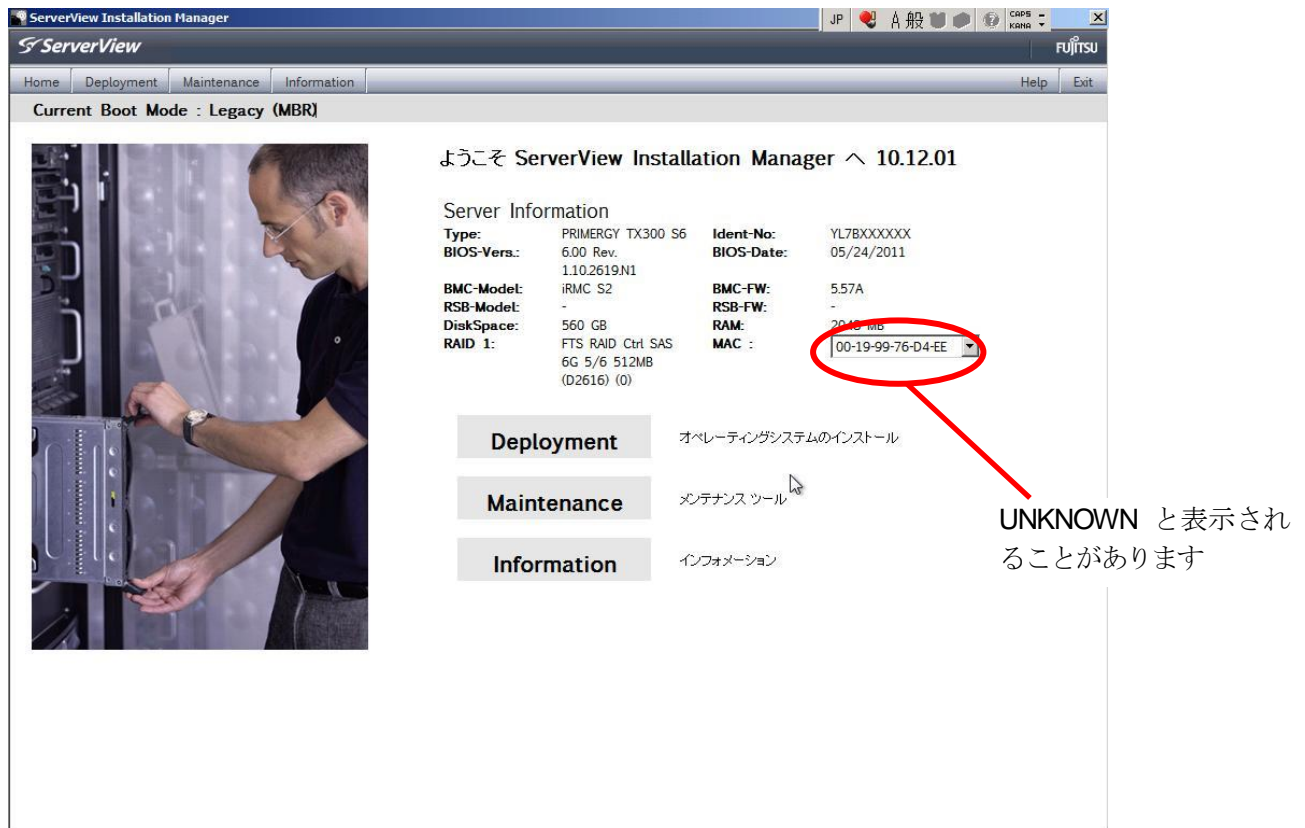
複数の RAID コントローラが接続された状態ではインストールが失敗することがあります。

(4) OS設定パラメータの使用禁止文字について

OS 設定パラメータの中には使用禁止されている文字があります。使用禁止文字が入力された場合は、キー入力時または次の画面に移動する際にチェックを行いますが、コピー＆ペーストによって入力された使用禁止文字はチェックされない場合があります。コピー＆ペーストでの入力は行わないでください。

例:Windows 設定時の コンピュータ名 英数字、-(ハイフン)、_(アンダースコア)以外は使用禁止文字です。

(5) LAN ポートの MAC アドレスがUNKNOWN 表示された場合の対処

LAN ポートが多数存在する構成において、SVIM の「ようこそ画面」で LAN ポートの MAC アドレスが「UNKNOWN」と表示される場合があります。その場合は、SVIM を再起動し「言語選択画面」で2分間待ってから言語を選択してください。

(6) ServerView Suite DVD の形態

ServerView Suite DVD は、2013 年 9 月発表製品より 2 枚構成から、ServerView Suite DVD(Tools)と ServerView Suite ServerBooks DVD(Manual)に分割され、DVD1 枚構成で別々の型名となりました。

以下の表示は読み替えをおこなってください。

・ServerView Suite DVD1 または、SVS DVD1 または、DVD1 → ServerView Suite DVD(Tools)
・ServerView Suite DVD2 または、SVS DVD2 または、DVD2 → ServerView Suite ServerBooks DVD(Manual)

(7) エクスプレスインストールの留意事項

V11.13.01 以降ではエクスプレスインストールを提供しました。
TX100 S2/TX100 S3/MX130 S1/MX130 S2/CX250 S1/CX250 S2/CX270 S1/CX270 S2 に Windows Server 2008 , Windows Server 2008R2,Windows 2012 をインストールする場合はエクスプレスインストールを指定することで、USB メモリを使用せずにインストールすることができます。エクスプレスインストールの詳細については『ServerView Installation Manager 取扱い説明書』を参照してください。なお、WebBIOS にて RAID 構築を行った直後の構成は、SVIM でのインストール開始後に1度再起動が発生することがあります。その場合は SVIM の起動から再開しますので、もう一度 SVIM の設定を行ってください。

(8) テープデバイスを接続するときはブートオーダーを低くしてください

テープデバイスを接続する場合は、ブートオーダーがテープデバイスとならないように、BIOS 設定画面(または UEFI 設定画面)で設定してください。またインストール時にはテープカートリッジは外してください。

(9) ストレージブレードはシャーシから外してインストールしてください。

ストレージブレードに OS をインストールしない場合は、インストール前にストレージブレードをシャーシより外してください。インストール完了後ストレージブレードを挿入し、ご使用ください。

(10) PCI カードを多数搭載するときは SVIM の起動時間がかかる場合があります。

PCI カードを多数搭載した場合 SVIM の起動に数時間かかることがあります。

(11) SVIM の設定を操作中の画面操作について

SVIM の OS 設定画面には「追加」ボタンが存在する画面で、「追加」ボタンをクリックすると画面が白くなることがあります。機能的には問題がありませんので、そのまま設定操作を続行してください。

SVIM の OS 設定画面で画面遷移をする際にスクリプトエラーが発生することがあります。その場合でも動作には影響ありません。「このページのスクリプトを実行しますか？」に対して「はい」を選択して操作を続行してください。

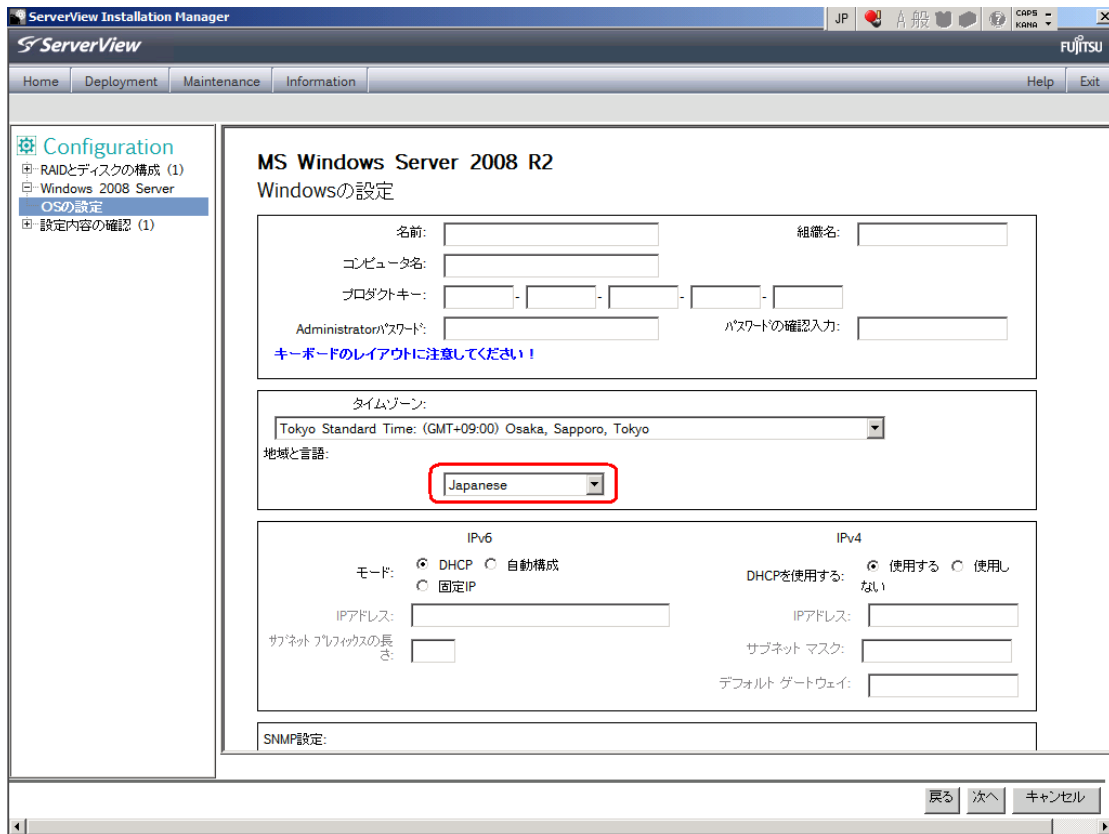
２. Windows 関連の補足情報

(1) Windows インストール時のメディアの種類とプロダクトキー入力

ガイドモード、クイックモードそれぞれにおいて、Windows メディアの種類により、プロダクトキー入力の要否は以下です。

OEM メディア　　: プロダクトキー入力しない。
Microsoft メディア : プロダクトキー入力をする。
　ただし、ボリュームライセンスの場合はプロダクトキーを入力しないでください。

クイックモードの場合は、メディアの種類を指定するチェックボックスはありませんので、注意が必要です。

(2) ボリュームライセンスメディアのプロダクトキーの入力について

- Windows Server 2008 / R2、Windows Server 2012 / R2 の場合
  SVIM の設定時にプロダクトキーを入力しないで下さい。
  インストール終了後に、インターネットを経由して Microsoft のライセンス認証サーバに対してライセンス認証（アクティベーション）を行ってください。
  MAK プロダクトキーはこのときに入力します。

- Windows Server 2003 R2 の場合
  SVIM の設定時にプロダクトキーを入力してください。

(3) リカバリ DVD を使用したインストールについて

「Operating System - Recovery DVD Windows Server 2008 R2」を使用してインストールを行う場合、地域と言語の設定を「Japanese」にしてインストールを行ってください。この設定を行わなかった場合、SVIM でインストール完了後、一部のアプリケーションで文字化けが発生することがあります。

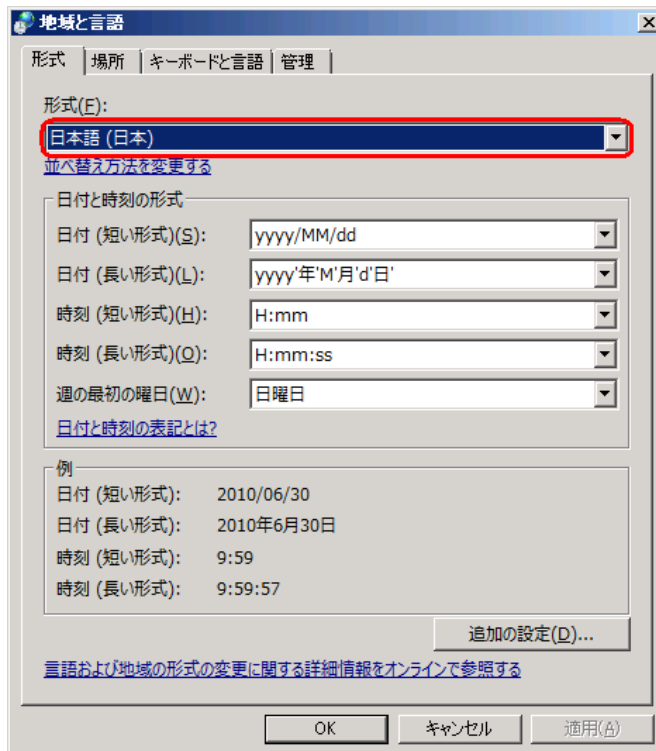
クイックモード：

・ 「OS の設定」画面の「地域と言語」で「Japanese」を選択してください。

ガイドモード:

- 「インストールイメージの選択」画面の「セットアップ言語」、および、「基本設定」画面の「形式、言語」で「Japanese」を選択してください。

インストール完了後、文字化けが発生した場合には、下記手順を行い、問題を解消することができます。

1. 「スタート」-「コントロールパネル」をクリックします。
2. 「コントロールパネル」に表示されている「時計、言語、および地域」の「表示言語の変更」をクリックします。
3. 「地域と言語」ウィンドウの「形式」タブをクリックします。
4. 「形式」を選択し、一度日本語以外の言語を選択した後、「日本語（日本）」に再設定します。

(4) Windows Server 2008R2 をインストールする際の注意

① Windows Server 2008R2 をインストールするには、SP1 適用媒体を使用するまたは、SP1 媒体を SVIM のアプリケーションウィザードで追加適用してください。 SP1 を適用していない環境では Emulex One Command Manager がインストールされません。

② Windows Server 2008R2 に対し、SP1 を単体のメディアでインストールする場合には機種によって数時間かかることがあります。

③ Windows Server 2008R2 に対し、SP1 を単体のメディアでインストールするには 9GB 以上の空き容量が必要です。

(5) Windows のリモートインストールにおける留意事項

iRMC 搭載機種にリモートインストール機能を使用して Windows をインストールする場合は、「ターゲットシステムの選択」画面において、iRMC の IP アドレスを必ず設定してください。設定しない場合、インストールが途中で停止し自動で継続しない場合があります。

(6) Windows Small Business Server 2011 Essentials のインストール手順について

Windows Small Business Server 2011 Essentials をインストールする場合、以下のように選択してください

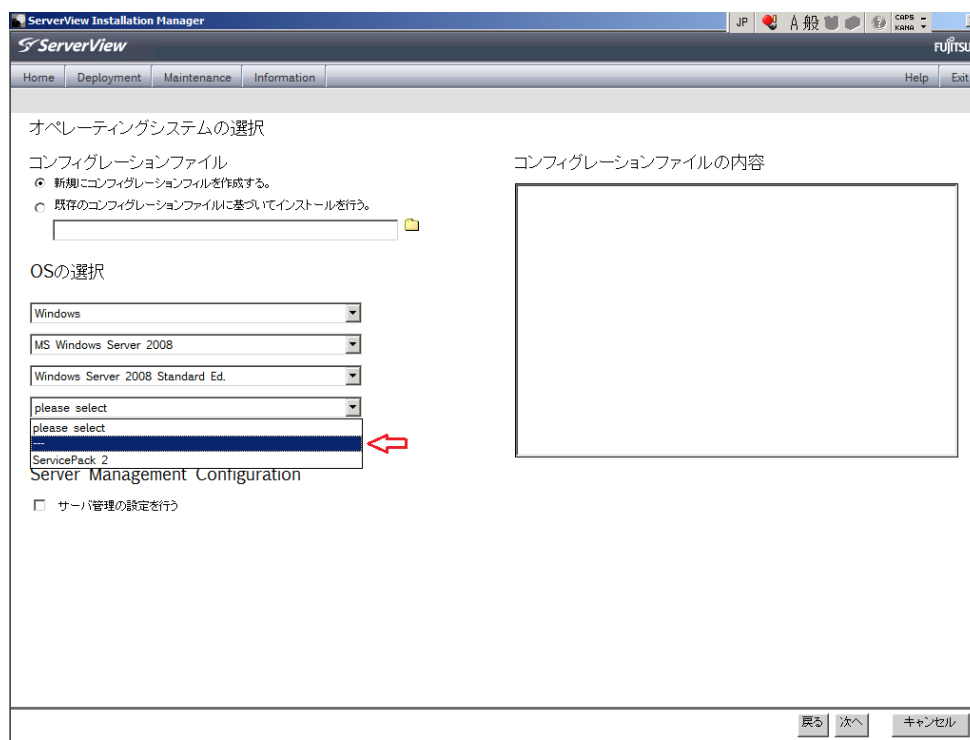
ガイドモードでは以下のように操作します。

④ 初期画面の言語選択では「Japanese」を選択します。
⑤ OS 選択画面では「Windows SBS 2011 Essentials」を選択します。
⑥ インストールイメージの選択画面ではセットアップ言語を「Default」のままとします。
⑦ 基本設定画面の「地域と言語の設定」は「English」のままで変更できません。
⑧ OS インストール開始後、SBS 設定で「サーバの言語として日本語を使用する」を選択します。

「国または地域」「時刻と通貨」「キーボードのレイアウト」で「Japanese」を選択します。
クイックモードでインストールを行う場合は、③、④のステップは表示されませんが、そのままインストールを行えます。

Windows Small Business Server 2011 Essentials のインストール後、キーボードの「規定の言語」が「日本語(日本)-日本語」に設定されます。
「日本語(日本)ー日本語」を「日本語(日本) - Microsoft IME」に設定しなおすには下記手順を行ってください。
1.「スタート」-「コントロールパネル」ー「地域と言語のオプション」を開きます。
2.「キーボードと言語」のタブから「キーボードの変更」をクリック
3.「規定の言語」で「日本語(日本)- Microsoft IME」を選択し「適用」をクリックします。

(7) **Windows OS 指定時の [- - -]の意味**

V10.12.05U までは OS の選択画面で Windows を指定する場合のリストボックス内の選択肢に[- - -]が表示されます。これはサービスパックを適用していない媒体を意味します。
サービスパックなしの Windows OS メディア(RTM 版、サーバ添付のインストールディスク)を使用してインストールする場合に[- - -]を選択してください。

この項目は V10.12.07 以降では[SP なし媒体]と表示されます。

(8) Windows Server 2008 Service Pack について

Windows Server 2008 Service Pack は SVIM を使用してインストールすることはできません。Windows Server 2008 本体をインストールした後に手動で Service Pack をインストールしてください。ただし、Windows Server 2008 Service Pack 適用済みの OS メディアをご使用の場合は、SVIM で Windows Server 2008 をインストールすることにより、Windows Server 2008 Service Pack 適用済み環境を構築することができます。

(9) ボリュームラベル名の入力について

ボリュームラベルを入力せずに、SVIM で、Windows OS をインストールした場合、インストールに失敗することがあります。ボリュームラベル名は、必ず入力してください。

(10) プロダクトキー入力画面が2度表示される場合があります

Windows 2008 または 2008R2 をインストールする際に Microsoft 版メディアを使用すると、SVIM の GUI 画面でプロダクトキーを入力したにもかかわらず、インストールの最終段階でプロダクトキー入力画面が表示されることがあります。プロダクトキー入力をせずに「スキップ」してください。

3． RedHat Enterprise Linux 関連の補足情報

(1) Linux のリモートインストールにおける留意事項

リモートインストール機能を使用して RHEL をインストールする場合は、Linux サーバを FTP/HTTP サーバとすることを推奨します。
Windows　サーバを FTP/HTTP　サーバとして使用する場合は、以下に注意して操作を行ってください。

① RHEL ディストリビューションディスクを Windows サーバにコピーする際に、ファイル名が 63 文字に切り詰められます。FTP/HTTP サーバ内のファイル名を確認し正しく修正することでこの現象を回避することができます。

例として下のようにファイル名が切り詰められます。
正しいファイル名
jakarta-commons-collections-testframework-javadoc-3.2-2jpp.3.i386.rpm
FTP/HTTP　サーバ内のファイル名
jakarta-commons-collections-testframework-javadoc-3.2-2jpp.3.i38　(63 文字に切り詰められます)

② RHEL6 について
RHEL6 の OS メディアを DVD ドライブに挿入し、下記コマンドを実行してください。

```
xcopy  [DVD ドライブ]:\  [コピー先ドライブ]:\[共有フォルダ]  /s/e/v/h/i
xcopy  [コピー先ドライブ]:¥[共有フォルダ]¥Server¥repodata  [コピー先ドライブ]:¥[共有フォルダ]¥repodata /s/e/v/h/i
```

(2) Linux では「システムクロックに UTC を使用」のチェックをはずしてください

SVIM の設定画面において「システムクロックに UTC を使用」の項目がチェックされた状態になっています。チェックをはずしてインストールを行ってください。チェックを外さずにインストールすると、インストール完了後に時間が９時間ずれた状態となります。その場合は時間を再設定してください。

(3) 仮想化（XEN カーネル環境）をインストールする場合の手順について

RHEL5、かつ、パッケージグループ：仮想化（XEN カーネル環境）をインストールする場合、以下のように選択してください。 (i386 アーキテクチャーでは Xen カーネル環境をサポートしていません。)

－ インストールモードの選択
① [ガイドモード] を選択します。

－ パッケージ選択手順
① [インストール番号：] を入力します。
② [パッケージグループ：] で [仮想化(1/1)] チェックボックスをオンにします。
③ [Kernel：] で以下のチェックボックスをオンにします。
- Native Kernel

－ ブートローダ手順
① [ブートローダをインストール] チェックボックスをオンにします。
② [ブートカーネルのデフォルトを XEN カーネルに設定] チェックボックスをオンにします。

(4) RHEL6 指定時の[---]の意味

OS の選択画面で RHEL6 を指定する場合のリストボックス内の[---]は 6.0 を意味します。

(5) RHEL6 ではファイルシステムは ext3 をご使用ください

RHEL6 のインストールを行う場合、swap 以外のパーティションのファイルシステムタイプは『ext3』を使用することを推奨します。
ただし、クイックモードでインストールを行う場合は『ext4』が自動選択されます。
『ext3』を使用する場合は、ガイドモードでインストールしてください

(6) RHEL7 においてインタラクティブモード非サポート

RHEL7 インストールにおいてインタラクティブモードはサポートされていないため使用できません。
SVIM V11.15.03 までの版数では、RHEL7 インストール時の「基本設定」ページでインストール設定に「インタラクティブモード」を指定できますが、これを指定してインストールを進めるとエラーが発生し、インストールが中断します。

(7) SVOM, SVAgent を同時にインストールする際の組み合わせについて

SVIM でインストールする際には、表に示す版数がインストールされます。
SVOM, SVAgent を更新インストールまたは、OS インストール後に追加インストールする場合は注意してください。

ポイント:
・11.14.11～11.15.03 において、SVAgent32 ビット版は旧版数(6.31)をインストールするパターンがあります。
・11.14.11～11.15.03 において、SVAgent と SVOM を同居させる場合は、SVAgent 32bit 版をインストールします。

OS		RHEL5				RHEL6 x86			
		Only Agt		Agt + SVOM		Only Agt		Agt + SVOM	
SVIM ver	SVS ver	32bit	64bit	32bit	64bit	32bit	64bit	32bit	64bit
11.14.06	6.30	6.30		6.30		6.30		6.30	
11.14.09	6.31	6.31		6.31		6.31		6.31	
11.14.11	7.00	6.31		6.31		7.00		7.00	
11.15.01	7.01	6.31		6.31		7.01		7.01	
11.15.03	7.01	6.31		6.31		7.01		7.01	

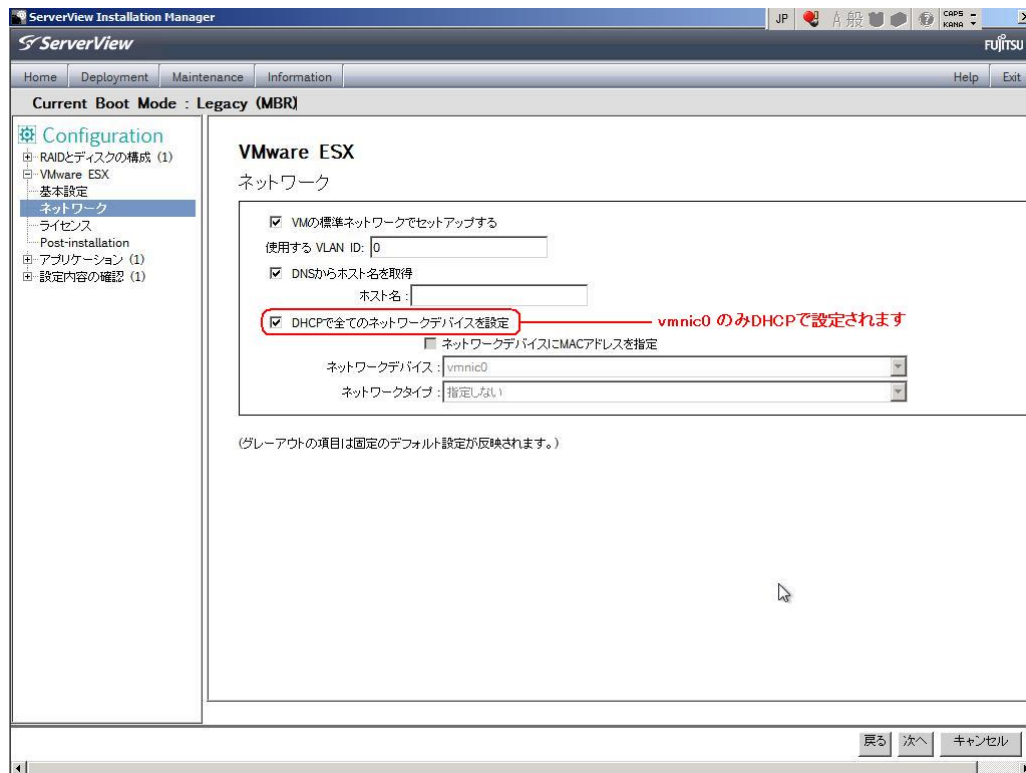
OS		RHEL6 Intel64				RHEL7			
		Only Agt		Agt + SVOM		Only Agt		Agt + SVOM	
SVIM ver	SVS ver	32bit	64bit	32bit	64bit	32bit	64bit	32bit	64bit
11.14.06	6.30	6.30		6.30		非サポート			
11.14.09	6.31	6.31		6.31			6.31	**impossible**	
11.14.11	7.00		7.00	6.31			7.00	**impossible**	
11.15.01	7.01		7.01	6.31			7.01	**impossible**	
11.15.03	7.01		7.01	6.31			7.01	**impossible**	

4. VMware 関連の補足情報

(1) VMware ESXi 5.x のインストールに関する留意事項

● 「ネットワーク」画面

「DHCP ですべてのネットワークデバイスを設定」を選択した場合でも vmnic0 のみが DHCP で設定されます。vmnic1 以降のネットワークデバイスを設定した場合、インストールが失敗する場合があります。

・ クイックモード/ガイドモード（画面共通）

(2) VMware ESXi5.x のインストールは Disk1 に行ってください。

VMware ESXi5.x をインストールする際に2つ以上の論理ディスクが存在する環境で、Disk2 以降へのインストールは行えません。ターゲットディスクを Disk1 にしてインストールを実施してください。

5. SVIM 使用上のヒント

(1) Windows インストール時に設定できるディスクパーティション数

SVIM で Windows をインストールする際に設定できるディスクパーティション数は最大4個です。しかしながら、SVIM で 4 個のディスクパーティションを設定すると、それ以上の追加はできません。

5 個以上のディスクパーティションを設定するには、SVIM では RAID とディスク構成画面において 3 個を設定し、Windows をインストール後に、Windows メニューのディスク管理で、残りのディスクパーティションを設定してください。

(2) Windows OS をインストールする場合のブートパーティションサイズの最小値

パーティションの利用形態で「boot」のみを指定した場合のパーティションサイズの最小値は 400MB です。

(3) Windows Server をインストールする際の Bitlocker パーティションサイズ

Windows Server をインストールする際に、「RAID とディスクの構成」画面でパーティションの利用形態の「Bitlocker」をチェックしたときの、システム予約パーティションサイズは以下となります。

	V11.13.04 以前	V11.13.05
Windows Server 2008	1600MB	1600MB
Windows Server 2008R2	1600MB	400MB
Windows Server 2012	1600MB	400MB

Windows Server 2012R2　　1600MB　　　　　　　　400MB

(4) Linux および VMware のパスワード設定時の注意

SVIM で Linux、VMware をインストールする際のパスワード設定および、テキスト入力可能箇所で以下の文字を使用することができません。

RHEL　　‘（シングルクォーテーション），先頭文字にハイフン “-“，＃（シャープ）
VMware　‘（シングルクォーテーション），＃（シャープ）

ただし、「root パスワードの暗号化」を指定する場合この限りではありません。

(5) Linux インストール時に HDD の全容量をパーティションに割り当てる方法

Linux のインストール時に HDD の全容量をパーティションとして割り当てるには「RAID とディスクの構成」画面で残り容量より十分小さい値（たとえば 1MB）をサイズ欄に指定し、「最大許容量まで使用」を選択してください。

(6) Linux をインストールする際の swap パーティションのサイズについて。

swap パーティションを作成するとき「パーティションを推奨のサイズで作成する」をチェックした場合には、次のルールで容量が自動で決定されます。

パーティションサイズは搭載メモリの量とディスクの空きスペースにより決定します。

256MB 以下の場合　　　　：256MB　～　512MB
256MB ～2048MB の場合　：メモリ量と同値　～　メモリ量×2
2048MB 以上の場合　　　：1024MB ～2048MB ＋メモリ量

(7) LVM 環境の構築の注意点

Linux をインストールする際に、LVM 環境のパーティションを作成するには「RAID とディスクの構成」画面においてサイズを設定する際に注意が必要です。

① 「パーティションの追加」ボタンを押します。
　ここで追加したパーティションをLVMボリュームグループとします。
② パーティションの＋ボタンをクリックして「LVM ボリュームグループの作成」をチェックします。
③ 「サイズ(MB)」に LVM ボリュームグループに割り当てるサイズを入力します。
　このときのサイズは、実際の残り容量以下の値を入力してください。端数がある場合には「追加容量オプション」に**「最大許容量まで使用」**をチェックすることで最大容量を確保できます。
　残り容量　≧　LVM ボリュームグループサイズ
④ 「適用」をクリックします。
　「ディスク1」と同等のレベルに「LV グループ」が追加されます。
⑤ LVM ボリュームグループ内にパーティションを設定します。
　パーティションのサイズとして指定できるのは、LVM ボリュームグループのサイズより 40MB 小さい値です。
　LVM ボリュームグループのサイズ　≧　グループ内のパーティションのサイズの総和　＋　40MB
　パーティションを LVM ボリュームグループのサイズまで確保するには、「最大許容量まで使用」をチェックします。

例）残りディスクサイズ 50123MB の場合

残りディスクサイズをすべて LVM ボリュームグループに割り当て、1つのパーティションを最大容量で確保

LVM ボリュームグループの「サイズ（MB）」　：50000　　「最大許容量まで使用」にチェック
パーティションのサイズ　　　　　　　　　　：1～49960　「最大許容量まで使用」にチェック

SVIM は異なる物理ディスクを束ねて LVM ボリュームグループを作成することはできません。

(8) RHEL におけるデフォルトでインストールされるパッケージの注意点

「アプリケーションウィザード」画面で選択するアプリケーションによっては、パッケージが追加インストールされるものがあります。追加されるパッケージは、アプリケーションの選択を解除しても、追加指定は解除されません。初期状態に戻すには「キャンセル」ボタンをクリックし、「オペレーティングシステムの選択」画面からやり直してください。

6． その他の補足情報

(1) ソフトウェアサポートガイドによるプロセスダンプファイル保存先

ソフトウェアサポートガイドがインストールされた環境では、アプリケーションで例外エラーが発生した際に、完全プロセスダンプファイルが以下の設定で採取されるようになります。

・ファイルの保存先　c:¥WERDUMP
・ファイル数の上限　10 個
・ファイルのサイズ　アプリケーションのメモリ使用量に依存

このファイルは、一般的なアプリケーションでは数百 MB になりますが、例えばデータベースを扱うなどで、メモリ使用量が多いアプリケーションの場合は、数 GB になる可能性もあります。
このため、保存されたファイルを放置すると、C ドライブのディスク空き容量が無くなり、システムが不安定になる可能性があります。

保存先については、ソフトウェアサポートガイドのダイアログから変更することができます。
また､設定を変更しない場合は､c:¥WERDUMP 配下のファイル容量を定期的にご確認頂くようお願いいたします。

(2) 簡易インストールでのシステムの電源について

MMB を使用した簡易インストールではセットアップ処理中の再起動時に電源が自動で投入されない場合があります。その場合は手動で電源を投入してください。セットアップが継続します。

(3) サポート対象 OS が非サポート OS として表示されることがあります

OS　選択画面において､サポート対象 OS であるにもかかわらず非サポートである旨のメッセージが表示されることがあります。その場合でもメッセージを無視してインストールを進めることができます。

(4) SVIM と PRIMERGY BIOS ファームの版数の相性について

SVIM と以下の機種の BIOS ファームの組み合わせた場合に、次のようなメッセージが表示され SVIM が起動しない問題があります。その場合は最新 BIOS ファームにアップデートしてご使用ください。

メッセージ:

Your PC ran into a problem and needs to restart.
We're just collecting some error info.
and then we'll restart for you (0% complete)

組み合わせ:

BX924 S3	BIOS R1.5.0 と SVIM V11.13.08
RX200 S7	BIOS R1.1.0 と SVIM V11.12.11
RX200 S7	BIOS R1.1.0 と SVIM V11.13.04
RX200 S7	BIOS R1.8.0 と SVIM V11.12.11

■ トラブルシューティング

SVIM を使用した際のエラーメッセージとそれに対する対処方法を記載します。

1. SVIM 起動時またはパラメータの設定時

(1) [Core] Installation Manager は、PRIMERGY システム上のみで使用可能です。

原因:SVIM は PRIMERGY および PRIMEQUEST ではないシステムでは起動しません。

対応:使用しているサーバが PRIMERGY または PRIMEQUEST であることをご確認ください。

(2) Configuration file not found

原因:SVIM 画面操作中にウィンドウ右上の×ボタンをクリックし、画面を閉じた場合に表示されます。

対応:SVIM の起動からやりなおしてください。

(3) [Core][System]Backup media not writable, Last Error:このメディアは書込み禁止になっています。

原因:コンフィグレーションファイルの保存先に指定した媒体が書き込み禁止になっています。

対応:媒体の書き込み禁止を解除してください。

(4) timeout on / svim / Legacy

原因:OS 選択画面を表示した直後に稀に表示されることがあります。

対応:操作を続行しても問題ありません。[OK]ボタンをクリックして操作を続行してください。

(5) ネットワークパス～～～に接続できません。ユーザ×××;ネットワークパスが見つかりません。

原因:初期画面でコンフィグレーションファイルをネットワークドライブ指定した際に、ネットワーク接続がされていない場合に表示されます。

対応:ネットワーク設定の見直しを行ってください。
コンフィグレーションファイルの指定をネットワーク以外にしてください。

2. OS インストール中のエラー

(1) an unknown error has occurred

原因:Linux インストールにおいて、インストール対象とするハードディスクに不要なデータが残っている場合に起こることがあります。

対応:ハードディスクの初期化を実行してからインストールを再度実施してください。

ただし、このメッセージは他の原因で発生することもあります。

(2) [DiskConfig] Error in configuration file: hard disk to small to hold all partitions

原因:「RAID とディスクの構成」画面で 指定したパーティションサイズが正しくありません。

対応:以下の点を見直してください。

- ・パーティションを手動設定した際に、実際のディスク容量よりも大きい値を設定した。
- ・「ディスク容量(MB)」を「手動」指定した際に、入力したサイズ値が、OS が必要とする最小値より小さい場合。

(3) [OsInstall] No installation image found, which matches the architecture of the configuration file

原因:「OS 選択画面」で指定した OS の種類と異なる OS のメディアを挿入した場合に表示されます。

対応: OS の種類を確認し、正しい OS を選択してください。

(4) [OsInstall] No installation image found, which matches the selected edition

原因:「OS 選択画面」で Windows OS を指定した際に、指定とは異なるメディアを挿入した場合に表示されます。また、プロダクトコードの入力値を間違えた場合もこのメッセージが表示されます。

対応: 以下のいずれかが不一致を起こしていないか確認し、正しい OS を選択してください。

・OS エディション
・Service Pack(SP)の有無、または Service Pack の版数
・プロダクトコードの入力

(5) [OsInstall]必須のパラメータがありません。

原因:UEFI に対応していない OS に対して、UEFI モードでインストールを行った場合に表示されます。

対応:Legacy モードでインストールを行ってください。UEFI モードのインストールについては、サーバがサポートしているかどうか注意が必要です。

(6) [RaidConfig] Invalid number of disks specified (must be *).**

原因:「RAID とディスクの構成」画面で指定した RAID 構築の際のディスク数が、実際に存在するディスク数より小さい場合に表示されます。

対応:正しいディスク数を入力してください。

(7) [RaidConfig] Operation cannot be executed at this time. Error code:20085(Invalid size.)

原因:「RAID とディスクの構成」画面で指定したディスクサイズが、実際に存在するディスクのサイズより大きい場合に表示されます。VMware インストールする際に表示されます。

対応:正しいディスクサイズを入力してください。

(8) [RaidConfig] Specified size too big (must be <= **********).**

原因:「RAID とディスクの構成」画面で指定したディスクサイズが、実際に存在するディスクのサイズより大きい場合に表示されます。Windows または Linux をインストールする際に表示されます。

対応:正しいディスクサイズを入力してください。

(9) Missing operating system

原因:RHEL のインストールを行っている際に、マルチパス環境で接続されているが、SVIM の「.ブートローダ」画面の「マルチパスオプションを使用する」にチェックしていない場合に表示されます。

対応:SVIM の再起動を行い、「マルチパスオプションを使用する」をチェックしてください。

(10)「無人応答ファイル(c:\windows\panther\unattend.xml)解析または処理できませんでした。」

原因:Windows のインストールを行っている際に、「役割と機能の追加」画面において SNMP サービスの詳細設定で「トラップ構成項目(コミュニティ名:トラップ送信先)」に同一のコミュニティ名で複数の IP アドレスを登録し、インストールを開始した場合にこのメッセージが表示されることがあります。

対応:同一のコミュニティ名で異なる IP アドレスの設定を行わないようにします。OS インストール後にトラップ送信先の指定を、同一コミュニティで指定することができます。

以上